

活動テーマ

地域の発展と交流

～皆野町金沢地区における情報交流の工夫を中心に～

皆野町金沢地区 十文字学園女子大学

## 1 活動目的

地域の発展と交流：地域「を」学び、地域「で」学び、地域「に」活かす十文字学園女子大学の教育研究活動成果を生かし、地域の方々と協力し合って地域活性化に力を入れる。今年度は歴史を学ぶ活動を発展させることと、「地域のことを外部に発信する活動」に力を入れる。



2018年12月12日 土壌調査

## 2 活動地域の現状

昨年度から新商品の開発でお世話になっている“金沢たたらの里加工センター（代表:高橋富美子さん）”においては、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、3月から6月ころまで休業を余儀なくされた。その後、国や県の支援を受け、通常の営業活動を再開した。

現在は、地域の伝統的な食材であるもろこし粉のかりんとうやマドレーヌ、もろこし饅頭のパックを道の駅「みなの」で販売している。

支援活動において以前からお世話になっている四方田忠則さんは体調が芳しくなかったが、現在は回復されている。サツマイモの栽培や干し芋づくりは、中断しているが、椎茸などのきのこ栽培は、継続している。

今後とも、リハビリテーションを継続しつつ、支援隊員に関するサポートをお願いする予定である。

その他、年中行事等は、新型コロナウイルス感染症の拡大ですべて中止となっている。昨年度まで継続してきた地域活動への支援は、当面は見送らざるを得ない状況である。

年度末に開催されてきた“かたくり祭り”は、今年度は、中止となったとのことである（例年3月の最終日曜日に開催）。そのかわりに、写真展を行う計画があるとのことである。そうした取り組みに対して、どのような支援が出来るかについて、今後検討する予定である。



2018年12月1日 四方田忠則宅 干し芋づくり

## 3 活動内容

11月22日に皆野町へ行き、“金沢たたらの里加工センター”と四方田忠則さんのお宅へ挨拶と状況を伺いに行った。その後、道の駅「みなの」へ商品の市場調査に行った。

最初に“加工センター”を訪問した。センターの状況は、県からの支援と、もろこしを用いた菓子の販売と営業を続けている。責任者の高橋富美子さんが、昨年度に支援隊と開発したベーグル作りに注目しており、ベーキングパウダーなどを用いた発酵時間が少ない製造法を知りたいと言っていたので、これを4年生のメンバーと進めていくことにする（来年度への継続課題）。

次に四方田忠則さんの自宅へ伺った。現在行っているキノコの栽培や以前育てていたマッシュルームやさくらんぼの栽培についての話聞いた。お話を伺う中で、地域の方たちから生きた歴史を学ぶことの意義を感じた。なにより、四方田さん自身が、自らの歴史を語ることが楽しそうであった。今後は、地域のオーラルヒストリーを記録し、残していく活動に取り組みたい。

最後に 道の駅「みなの」へ市場調査に行き、加工センターのもろこし饅頭のパックと、もろこし粉のかりんとう、及び四方田さんが作っている干しいものパックの販売状況を確認

した。高橋さんからは、競合するインスタベーカリーのことを伺っていたが、この日は、すでに営業を終えており、調査は出来なかった。

年末にふるさと支援隊のための Instagram を開設した。



2018年10月21日 サツマイモ収穫

#### 4 成果

活動に協力してくださっている地域の方々の現状及び現地における活動を確認した。また四方田さんのお話から、地域で生産されている農作物について知ることができた。オーラルヒストリーによる地域史の記録という課題が新たに見えてき

た。次年度に向けて、課題としたい。

#### 5 課題

ベーキングパウダーなどを用いた発酵時間の少ないベーグルの製造方法について調査すること。また、加工センターにおいて、ベーグルの味の候補として「くるみ味」と「ごま味」が挙げられているという話を聞いたので、他の味のバリエーションも考案すること。地域の歴史を、地域の人々によって「生きられた歴史（ピエール・ブルデュー）」として、記録し、保存していくこと。地域の年中行事等の記録や保存、活用について、新型コロナウイルス感染症の拡大の状況の中で、検討していくことなどが挙げられる。

#### 6 次年度以降の計画

次年度においては、ふるさと支援隊の組織と構成を見直す。3年間にわたり、公募により、支援隊員を募ってきた（任意団体として活動）。これは、活動の継続性の面では、よい効果をもたらした。しかし、当初メンバーが卒業するまで核になってしまい、構成員が固定化する。そのことで、リーダーの世代交代が進まなかった。新年度は、



2019年3月31日 かたくり祭支援

大学の公式な教育課程に位置づけ、カリキュラムポリシーに沿った構成と組織に改める。このことによって、各年度ごとに、責任あるリーダーを育て、次年度へと継承していくシステムを構築する。

年中行事等の支援について、検討する。今年度は、地域の窓口となって下さっていた四方田忠則さんの体調が思わしくなく、すべての行事が中止となった。新年度においては、ICTを活用した記録や保存、活用について、検討をしたい。

新製品の開発、普及により、地域の拠点となっている金沢たたらの里加工センターへの支援を充実させる。特に、ご高齢の所員により支えられているセンターに対して、無理のない作業工程を考えるなど、ユニバーサルデザインの発想を取り入れていきたい。



2019年 金沢たたらの里加工センター マドレーヌ作り